

事業所自己評価シート（公表）

令和 7 年度

職員による自己評価

保護者による評価

A 環境・体制整備

1. 活動室の広さは、決して十分とは言えない。利用人数によっては狭い。
2. 職員数は利用児童の数によっては足りない
3. 車椅子の利用者の移動が難しい

B 業務改善と適切な支援の提供

1. 業務ソフトの導入運用により、特に保護者様とのコミュニケーションが濃くなり改善している
2. 目標設定と振り返りは改善している。更に工夫し改善を目指す
3. 支援開始前の職員打合せは改善されている。ミーティング開始時間の変更で改善が期待できる
4. 支援終了後の職員間打合せは、良くなっている

C 保護者様、関係機関との連携

1. 自立支援協議会、子ども部会等への積極的参加は促進されている
2. 保護者会の定期的開催は保護者様同士の情報交換、絆の強化に繋がり事業所との関係性強化に効果を上げている
3. 担当者会議、カンファレンス等には適任者の出席を心掛け関係性を強めている
4. 放課後児童クラブ、児童館や地域の保育園等との交流機会を増やすよう努めている

D 保護者への説明責任と非常時対応

1. 業務ソフト「HUG」での日常運用、月刊誌「いっぱい通信」の発行、ホームページでの事業所自己評価公表等で事業所活動の情報発信は積極的に行っている
2. 事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等各種のマニュアルの整備及び保護者様への周知方法は検討改善が必要と考えている
3. 毎月の防災訓練は継続を図っていく。有事に動ける体制作りと訓練での習得へ強化する

A 環境・体制整備

1. 室内の活動スペースは少し狭いと感じる
2. 急な階段があり見守りが必要
3. 建物の老朽化、急な階段が気になる

B 児童への適切な支援の提供

1. サービス計画は提示された支援計画に沿っているので、家族の意向をもっと取り入れてほしい
2. 活動プログラムが固定しないよう子どもの状況によって内容を増やしてほしい

C 保護者様への説明等、事業所からの情報発信等


1. 業務ソフト「HUG」の運用、活動報告で活動の様子がよく分かり助かっている
2. 毎年開催される食事は情報交換等ができて有意義なものになっている。きょうだい支援もあれば助かります
3. 水分を殆ど飲めないや、お弁当を殆ど食べない時等は積極的に情報共有がほしい
4. 現金を使用する機会が減っており、利用料の引落しが出来るようにしてほしい

D 非常対応等の対応

1. 事故防止、緊急時対応、防犯、感染症マニュアル等の周知、説明を分かり易くしてほしい
2. 事故等（怪我を含む）発生した際の迅速な連絡、正確な説明等をお願いします
3. 毎月行っている防災避難訓練は今後も継続して下さい。大変役立っています

E 満足度

1. こどもは通所を楽しみにしています
2. いつも丁寧な支援をありがとうございます



事業所内での分析

【共通点】

- ① 建物の老朽化、階段の危険性等への心配。バリアフリー化への期待
- ② 活動プログラムの柔軟性と多様化への対応
- ③ きめ細かな個別支援計画の策定と活用
- ④ 業務ソフト活用の有効性と運用の高度化
- ⑤ 情報発信力の強化。コミュニケーションの重要性と密度の強化
- ⑥ 保護者会等の保護者様同士の繋がり強化と事業所との連携強化
- ⑦ 事故防止、感染症対応等各種マニュアル整備と周知方法の検討
- ⑧ 防災訓練の継続と実効ある習得の推進

【相違点】

- ① 放課後児童クラブ、児童館等地域の他のこどもと活動機会の推進
- ② マニュアル整備と保護者様への閲覧、周知方法
- ③ 保護者様との交流・支援・連携の強化推進
- ④ 銀行引落等支払い方法の多様化への対応検討

分析・検討してみる

事業所の強み

- I 障がい児放課後預り事業以降放課後等デイサービスまで継続した長い事業運営の実績と支援ノウハウを蓄積した安心・安全な支援助力を持つ
- II 小学低学年からの長いご利用の中で培われた保護者様との信頼関係性を基にしたきめ細かな支援体制を持つ
- III 支援経験豊かな児童指導員等職員の配置が支援の安心・安全性と児童との関係性の確立に繋がっている
- IV 長い事業運営実績の中で関係機関との支援連携体制が培われており、質の高い広範な支援が出来る
- V 長い経験実績から送迎方法と送迎体制等のノウハウ蓄積を備え、質の高い送迎が出来ている

安心・安全・暖かい居場所

事業所の改善点

- A 施設の老朽化を念頭に随時安全を優先したハード面の環境整備とソフト面の対応
- B 緊急時対応等のマニュアル整備及び有事の際に確実に行動できる日頃の防災訓練の継続
- C 支援の質的向上のための計画的職員教育・研修機会の実施
- D 業務ソフトの効果的な活用と習熟及び保護者様との情報共有を通じての関係性強化
- E 保護者様との交流機会の強化、関係機関、地域との連携活動の推進
- F 専門知識、資格等を持った有資格者の効果的活用と計画的獲得

新たな「いっぱい放デイ事業」への改革

事業所改善への取り組み

事業所の強みを最大限に生かしながら、事業所運営の改善を戦略的に確実に根気よく取り組んでまいります。

- A 常に利用者様の安心・安全を第一優先に意識し、危険の先取りと予期を絶やさず、ハード的な環境整備とソフト的な改善向上を全職員で行います。
- B 虐待・拘束防止対応、BCP、緊急時対応マニュアル等の整備を進め、併せて、有事の際、確実に活動できる避難訓練等の実施と習得を継続して行います。
- C 長年培った支援ノウハウを更に高めながら利用児童、保護者様への支援力強化と業務ソフトを活用した情報共有の強化を図り、日々活動の支援連携力を高めます。
- D 支援の質的向上を図る人材育成と獲得並びに専門知識、資格を保有した人材の有効活用を計画的に進めます。事業の世代交代を見据えた若返りを戦略的に進めます。
- E 記録等毎日の業務の見直し、無駄排除等の業務改善を進めます。又、改善、効率化のための業務ソフトの活用高度化を進めます。
- F 保護者様同士の交流会、親睦会連携を柔軟に強化し継続してまいります。
- G 保護者様、外部への情報発信力を強化します。「いっぱい」の理解者、ファンを増やすための情報提供、外部との連携活動を積極的に進めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

障害児支援活動の環境変化、同業放デイ事業所の急速な増加による競争の激化、発達障害個別級児童の利用拡大による支援環境の変化等々、事業を取り巻く環境が激変しています。事業所自己評価の分析評価によりこれらの変化が一層明確になると共に、自分たちの強みを最大に生かした差別化戦略の強力推進が、これらの変化に打ち勝ち、継続できる実力、老舗としての自信とプライドを改めて強く意識しています。障害児とそこご家族様、地域と職員一体となった支援を推進します。

事業所名 いっぱい放課後等デイビス

担当者 管理者 鈴木葉子、特別顧問 竹下 惇